

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1970800866		
法人名	特定非営利活動法人 ふるさと		
事業所名	グループホーム ふるさと敷島		
所在地	山梨県甲斐市大下条425番地1		
自己評価作成日	平成28年11月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/19/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	甲府市北新1-2-12		
訪問調査日	平成28年11月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様一人ひとりの状態を職員が把握し、思いに添った支援ができるよう家族と一緒に生活しています。セラピー犬の「ぶー子」ちゃんが利用者様を癒してくれていつもみんなの笑い声がホールに響いています。今年は裏庭に茄子ときゅうりを植えました。苗の植え方や肥料のことなど一つ一つ利用者様に指導してもらいたくさんの収穫が出来みんなで美味しくいただきました。日常生活の中では個々のリズムを大切にしながら安心して穏やかに過ごしていただけるよう見守り支援しています。地域の保育園児との交流があり飛び切りの笑顔ありうれし涙あり。これからも利用者様の生きがいにつながっていきたくと思っています。季節ごとにみんなで作った貼り絵を飾り、益々会話や笑顔のきっかけになるように日々小さな工夫もしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、JR竜王駅北部に位置し、周辺には、大型スーパー、保育園や小学校、アパートなどがある閑静な住宅街にある。前庭は、広いスペースがあり、日当たりもよい。玄関先にベンチが用意され戸外での気分転換が図れる気配りがされてある。玄関に理念の「ちいきにとけあい、いきいきくらし、きごころしれた、なかになる」が大きく掲示され、利用者に対する事業所の取り組みがうかがえる。同敷地内には、併設デイサービスと居宅介護支援事業所、週3回診察日の認知症専門医の診療所があり、医療との連携も密となっている。、住み慣れた地域で、医療と介護が一体となり、入居前の生活を大切に、職員と「きごころしれた」関係作りのなか、穏やかな日々を過ごすことができている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input checked="" type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホームふるさと敷島**

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(東)	ユニット名(西)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域とのつながりを大切にした理念があり、全職員が理解し日々の支援の中で心がけている。	本人や家族の状況をより細やかに把握し、ご家族の複雑な思いを受け入れるようにしている。思いに添う支援ができるよう努力している。特に入所当初は生活状況や体調な+D35:D48	玄関には、「ちいきにとけあい、いきいきくらし、きごころしれた、なかになる。」職員皆で考えた理念が大きく掲示されている。月1回ペースで開催されるミーティングに於いて、利用者の情報と支援方法を確認して、日々のケアの中で理念が実践されているかの確認と共有をしている	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入っている。地域の行事やお祭りに参加し地域の方々とのお話や交流を大切にしている。地域の方のボランティアも多く交流ができています。	自治会に入っている。地域の行事やお祭りに参加し地域の方々とのお話や交流を大切にしている。地域の方のボランティアも多く交流ができています。	地域の自治会に参加し、祭りへの参加や保育園児達の散歩中の訪問もある。敬老の日には、地元敬老会との交流からプレゼント交換等も行われている。また、介護体験として、高校生のボランティア体験も受け入れて、地域との交流が密となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の民生委員さんからの相談などがあり都度対応している。	地域の民生委員さんからの相談などがあり都度対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一度、運営推進会議を開催している。頂いた意見や情報は職員会議で共有し、改善に向けて取り組んでいる。	二ヶ月に一度、運営推進会議を開催している。頂いた意見や情報は職員会議で共有し、改善に向けて取り組んでいる。	利用者家族、民生委員(区長兼務)、市包括支援課長、職員4名の出席のもと、2か月に1回、運営推進会議が開催されている。、行事等の年間予定や、ノロウイルス、インフルエンザ予防の質問等が出る。また災害、特に水害等の対応の際、避難先等の具体的な指示が検討された。出された議事内容は職員間で共有、確認している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議のメンバーとして参加していただいているため相談や意見など気軽に話すことが出来る。	運営推進会議のメンバーとして参加していただいているため相談や意見など気軽に話すことが出来る。	事業所の実情報告や空き情報、生活保護制度を含む新規の受け入れ、また、困難事例の検討、成年後見制度の申請、権利擁護の指導等について、運営推進会議にて協力関係が構築されているため、気軽に話し相談することが出来ている。。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束はしない」という信念を全職員が理解し実施している。継続的に会議や申し送り徹底している。	「身体拘束はしない」という信念を全職員が理解し実施している。継続的に会議や申し送り徹底している。	玄関の扉は自由に解放されている。日々の言葉の代替えからスピーチブロックを回避し、抑圧感のない言葉使いに職員は注意を払った対応を心掛けている。また、拘束と思われる言葉に気づいた時は、職員間で注意し合える職場環境となっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	虐待について研修会を行っている。職員全体が危機感を持ち、職員同士で声をかけ合い虐待防止に努めている。	虐待について研修会を行っている。職員全体が危機感を持ち、職員同士で声をかけ合い虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	権利擁護に関する研修会に参加し、施設内でも勉強会を行っている。	権利擁護に関する研修会に参加し、施設内でも勉強会を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時には書面と口頭でできる限りわかりやすく説明している。疑問や不明な点があった場合にはいつでも連絡していただけるようご家族に伝え、その際には速やかに対応している。	入所時には書面と口頭でできる限りわかりやすく説明している。疑問や不明な点があった場合にはいつでも連絡していただけるようご家族に伝え、その際には速やかに対応している。		

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホームふるさと敷島**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(東)	ユニット名(西)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者・家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム内に苦情の窓口及び意見箱を設置している。公的な相談窓口の連絡先を書面及び口頭で説明し理解していただいている。家族会での意見や要望など職員会議で検討し改善につなげている	ホーム内に苦情の窓口及び意見箱を設置している。公的な相談窓口の連絡先を書面及び口頭で説明し理解していただいている。家族会での意見や要望など職員会議で検討し改善につなげている	利用者や家族の要望が取り入れられるよう、意見箱が設置され、利用者や、面会時の家族からの要望等が言いやすい環境となっている。家族から、「職員の一日の動きが分かるように」との要望に対して、日勤や夜勤等の勤務状況が理解できるよう、廊下に掲示するなど柔軟な対応を心掛けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を定期的実施し意見や要望を自由に申し出る機会をつくっている。職員と代表者及び管理者との信頼関係があり、気軽に意見をだせる関係ができています。	職員会議を定期的実施し意見や要望を自由に申し出る機会をつくっている。職員と代表者及び管理者との信頼関係があり、気軽に意見をだせる関係ができています。	職員会議は、定期的に月1回開催しているが、特変等、必要に応じその都度の開催も実施している。土・日曜日の増員要望に対して、1名の増員体制となった。また、インフルエンザ予防対策から、大型加湿器購入の要望も購入した。希望・要望が聞き入れやすい環境となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の実績および勤務状況を把握し、給与水準等、向上心を持って働くことができるよう職場環境の整備に努めている。	職員の実績および勤務状況を把握し、給与水準等、向上心を持って働くことができるよう職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要に応じて自主的に事業所内外の研修に参加するよう促している。研修の内容にかかわらず、全て勤務扱いで受講している。	必要に応じて自主的に事業所内外の研修に参加するよう促している。研修の内容にかかわらず、全て勤務扱いで受講している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の研修を通し、交流を図り意見交換を行っている。	グループホーム協会の研修を通し、交流を図り意見交換を行っている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前には本人の思いや不安、要望などゆっくり話を聞いている。新しい環境への不安を少しでも取り除くことができるようにゆったりとした時間をつくり工夫している。	入所前には本人の思いや不安、要望などゆっくり話を聞いている。新しい環境への不安を少しでも取り除くことができるようにゆったりとした時間をつくり工夫している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人や家族の状況をより細やかに把握し、ご家族の複雑な思いを受け入れるようにしている。思いに添う支援ができるよう努力している。特に入所当初は生活状況や体調などこまめに報告している。	本人や家族の状況をより細やかに把握し、ご家族の複雑な思いを受け入れるようにしている。思いに添う支援ができるよう努力している。特に入所当初は生活状況や体調などこまめに報告している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の話を良く聞き、管理者・ケアマネジャー・職員が相談内容を確認、把握している。その後、具体的な支援内容を検討しサービスにつなげている。	本人、家族の話を良く聞き、管理者・ケアマネジャー・職員が相談内容を確認、把握している。その後、具体的な支援内容を検討しサービスにつなげている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者様一人ひとりの生活歴や心身状況を把握した上で日々支援している。人生の先輩である利用者様を尊敬し、職員は常に学ぶ姿勢で生活している。	職員は利用者様一人ひとりの生活歴や心身状況を把握した上で日々支援している。人生の先輩である利用者様を尊敬し、職員は常に学ぶ姿勢で生活している。		

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホームふるさと敷島**

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(東)	ユニット名(西)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の変化を家族に伝え、常にご家族と職員が同じ気持ちで利用者様を支えることができるよう情報交換している。面会時には家族の時間や空間を大切に過ごしていただけるよう心がけている。	利用者様の変化を家族に伝え、常にご家族と職員が同じ気持ちで利用者様を支えることができるよう情報交換している。面会時には家族の時間や空間を大切に過ごしていただけるよう心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や親戚の方々の面会や、一緒に外出を楽しむことができる支援をしている。	友人や親戚の方々の面会や、一緒に外出を楽しむことができる支援をしている。	入所前に住んでいた近所の人達が来てくれたり、利用者の家族の友人が趣味である楽器演奏や、歌等の訪問がある。また家族との墓参りや、なじみの店に行くこともある。家族が対応できない時には、職員と一緒に出掛け、馴染みの関係が途切れないように努めている。毎日午後セラピー犬「ビーゴ」の訪問があり、利用者の楽しみのひと時となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活のかかわりの中で利用者同士の関係を把握し、孤立しがちな利用者様には職員が寄り添い、他の利用者様とのかかわりのきっかけになるよう支援している。	日常生活のかかわりの中で利用者同士の関係を把握し、孤立しがちな利用者様には職員が寄り添い、他の利用者様とのかかわりのきっかけになるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も困りごとや相談など都度対応している。	退所後も困りごとや相談など都度対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常のかかわりやご家族などの話の中から利用者様の思いや要望をくみとり、職員間で情報を共有し支援している。	日常のかかわりやご家族などの話の中から利用者様の思いや要望をくみとり、職員間で情報を共有し支援している。	入所前の情報をケアマネジャーや家族から得て、希望に沿った生活が得られるケアに結び付けている。また、言葉で表現できない利用者の場合は、日々の生活の表情や生活リズムの把握に努めて、今迄の生活感が崩れないようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常生活の会話や行動を通し、馴染みや安心のヒントが得られるよう努めている。過去にサービス利用がある方は事業所から情報をいただき、より深くご本人を理解することにつなげている。	日常生活の会話や行動を通し、馴染みや安心のヒントが得られるよう努めている。過去にサービス利用がある方は事業所から情報をいただき、より深くご本人を理解することにつなげている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方や心身状況等、個別に記録し生活リズムや変化等を把握している。定期的にカンファレンスを行い「できること探し」に取り組んでいる。	一人ひとりの一日の過ごし方や心身状況等、個別に記録し生活リズムや変化等を把握している。定期的にカンファレンスを行い「できること探し」に取り組んでいる。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人や家族から思いや要望を聞きその内容をもとにケアカンファレンスを実施している。利用者様、ご家族の思いを重視した介護計画を作成している。	ご本人や家族から思いや要望を聞きその内容をもとにケアカンファレンスを実施している。利用者様、ご家族の思いを重視した介護計画を作成している。	入所時には、ケアマネジャーや市包括支援等からの情報収集に加えて、本人・家族の意向を確認し暫定プランを作成している。一か月後介護職員の、日々の様子の記録、生活リズム、家族の意向を含めて、サービス会議を開催し本プランとなる。その後3か月ごとのモニタリングを行い、プラン見直しが行われている。変化がある場合はその都度検討し、変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	バイタル・食事摂取量・排泄の記録をしている。その他表情や言葉など注意深く観察している。職員一人ひとりの気づきを会議で出し合い介護計画の見直しにも大いに役立っている。	バイタル・食事摂取量・排泄の記録をしている。その他表情や言葉など注意深く観察している。職員一人ひとりの気づきを会議で出し合い介護計画の見直しにも大いに役立っている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホームふるさと敷島**

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(東)	ユニット名(西)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の状況により、ご家族の理解や協力をいただきながら要望に応じて個別に対応している。	個々の状況により、ご家族の理解や協力をいただきながら要望に応じて個別に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の保育園との交流会を行い生き生きと過ごしている。	地域の保育園との交流会を行い生き生きと過ごしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の要望に応じかかりつけ医を決めていただいている。受診は基本的に家族対応だが、希望や状況に応じ職員が対応している。	ご本人、ご家族の要望に応じかかりつけ医を決めていただいている。受診は基本的に家族対応だが、希望や状況に応じ職員が対応している。	入所者17名の内4名は、入所前のかかりつけ医で、受診は家族対応ではあるが職員も同行し、病状や日々の様子を報告している。他の13名は、隣接する認知症専門医の「ふるさと診療所」が主治医となり、かかりつけ医共に医療連携が図られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設の看護と情報交換しながらケアを行っている。	施設の看護と情報交換しながらケアを行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院の際には病院との情報交換をカンファレンスや電話で行い、早期退院や退院後のケアがスムーズに行えるよう、家族を含め都度検討している。	入退院の際には病院との情報交換をカンファレンスや電話で行い、早期退院や退院後のケアがスムーズに行えるよう、家族を含め都度検討している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時や折に触れ、重度化及び終末期についてご家族に希望を聞き、事業所としてできる事、方針をお話している。職員間で勉強会を実施している。	入所時や折に触れ、重度化及び終末期についてご家族に希望を聞き、事業所としてできる事、方針をお話している。職員間で勉強会を実施している。	入居時に、利用者の状態が変化した時の説明と家族の意向を伺って、今後の方針の確認を行っている。緊急時には救急搬送して病院に行くが、入院の必要がない場合は、かかりつけ医及び隣接する「ふるさと診療所」と連携を図り、状態変化の対応をしている。また、入居前から8~9割の利用者は、特養への申込を行ってある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護職員指導のもと緊急時対応の指導を受け訓練を実施している。	看護職員指導のもと緊急時対応の指導を受け訓練を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼夜を想定し緊急連絡網を使い避難訓練を実施している。水害時の対応についても市に確認しガイドラインを作成している。	昼夜を想定し緊急連絡網を使い避難訓練を実施している。水害時の対応についても市に確認しガイドラインを作成している。	年2回の防災訓練(外に連れ出す)を行うと共に、緊急連絡網での通報訓練を行っている。夜間2人態勢では、消火と通報と役割分担されている。また火災セキュリティが設置され、警備会社及び消防署への自動通報となっている。事業所内には、全員分のヘルメット、手拭いが準備され防災に備えている。日々の生活においても、職員間で災害時等の確認をして共有している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに合わせた言葉かけや対応を全職員が心がけ実施している。入浴や排泄、着衣交換時にはプライバシーを損ねないよう支援している。	一人ひとりに合わせた言葉かけや対応を全職員が心がけ実施している。入浴や排泄、着衣交換時にはプライバシーを損ねないよう支援している。	今迄の生活歴を把握し、その利用者に合った言葉がけでの対応を心掛けている。同性介護を基本として、排泄、失禁時の支援には、さりげない誘導に努めている。また部屋の開閉はノックをして、利用者の意思表示で入室している。	

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホームふるさと敷島**

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(東)	ユニット名(西)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の話に耳を傾け、時間にゆとりを持ち「待つケア」を心がけ実践につなげている。	利用者の話に耳を傾け、時間にゆとりを持ち「待つケア」を心がけ実践につなげている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	外気浴や散歩など希望に添った時間やタイミングでの支援を心がけている。	外気浴や散歩など希望に添った時間やタイミングでの支援を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者のこだわりを大切にしながら支援している。	利用者のこだわりを大切にしながら支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりに合わせた食事を提供し、職員も同じテーブルで会話をしながら食べている。テーブルを拭いたり茶碗の後片付けなど個々の力に応じて一緒に行っている。	一人ひとりに合わせた食事を提供し、職員も同じテーブルで会話をしながら食べている。テーブルを拭いたり茶碗の後片付けなど個々の力に応じて一緒に行っている。	食材の買い出しは、希望する利用者と職員とが出掛けている。専属の職員が主に厨房で調理をして、ユニットの共有食堂ホールにあるキッチンで、ご飯とみそ汁を作り盛り付け・配膳をしている。食事前の嚥下体操や食後の後片づけ、茶碗やテーブル拭き等、利用者の状態に合った個々の力を活かしている。職員は一部介助を行ないながら、一緒に食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりにあった食事形態を提供している。食事量、水分摂取量は職員が把握している。その日の状態や気候等により量や内容など工夫し支援している。	一人ひとりにあった食事形態を提供している。食事量、水分摂取量は職員が把握している。その日の状態や気候等により量や内容など工夫し支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い、義歯の洗浄、管理をしている。定期的に歯科医による訪問受診、口腔ケアの指導をしていただいている。	毎食後、口腔ケアを行い、義歯の洗浄、管理をしている。定期的に歯科医による訪問受診、口腔ケアの指導をしていただいている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックを行い、一人ひとりの排泄パターンを全職員が把握している。誘導時間を検討工夫し、無理なく快適に排泄できるよう支援している。	排泄チェックを行い、一人ひとりの排泄パターンを全職員が把握している。誘導時間を検討工夫し、無理なく快適に排泄できるよう支援している。	全員の排泄チェック表を記録し、職員全員が利用者の排泄パターンを把握している。チェック表を把握・共有することで、利用者の自立に向けた支援が可能となってきている。24時間オムツ対応者は1名、夜のみの利用者が2名、他の利用者は、トイレ誘導の支援で自立している。リハビリパンツにパットを使用している利用者も、トイレ誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防も含め、毎日体操を行っている。毎日夕食時にヨーグルトを提供し、繊維食材を活用した食事提供を工夫している。必要に応じ主治医に相談し対応している。	便秘予防も含め、毎日体操を行っている。毎日夕食時にヨーグルトを提供し、繊維食材を活用した食事提供を工夫している。必要に応じ主治医に相談し対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそって支援をしている	自由に入浴できる	自由に入浴できる	入浴時間は、午前中が中心ですが、本人の希望で実施している。入浴を嫌がる利用者が多く、タイミングを変えたり、仲の良い人との入浴等、工夫して、無理強いない誘導を行っている。また、本人の希望に沿った衣服を職員が準備し、入浴への促しとなっている。	

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホームふるさと敷島**

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(東)	ユニット名(西)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状況に応じ、昼寝をしたり好きな場所でくつろぐことができる支援をしている。日中の活動を工夫し、良い睡眠がとれるよう支援している。	個々の状況に応じ、昼寝をしたり好きな場所でくつろぐことができる支援をしている。日中の活動を工夫し、良い睡眠がとれるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様の疾患、それに伴う服薬の用法、用量を把握している。心身状況の変化により薬の内容に変更があった場合は全職員が把握するよう徹底している。	利用者様の疾患、それに伴う服薬の用法、用量を把握している。心身状況の変化により薬の内容に変更があった場合は全職員が把握するよう徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様一人ひとりが生きがいや役割を持って生活できるように支援し、必ず感謝の言葉を伝えている。	利用者様一人ひとりが生きがいや役割を持って生活できるように支援し、必ず感謝の言葉を伝えている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お墓参りや外食、自宅で家族と過ごすなど希望やペースにあわせてご家族に協力していただきながら支援している。	お墓参りや外食、自宅で家族と過ごすなど希望やペースにあわせてご家族に協力していただきながら支援している。	天気の良い日には、広く日当たりの良い前庭のベンチで過ごしたり、事業所の菜園や裏手にある田んぼでの田植えや稲刈りの見学をしたりしている。また、季節ごとの花見等々に出かけたり、利用者の希望時には職員がその都度対応をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	要望に応じ支援している。	要望に応じ支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	家族や知人からの手紙や電話など自由にできる支援をしている。	家族や知人からの手紙や電話など自由にできる支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全で快適に過ごすことができるよう環境を整備している。季節ごとの飾りつけや、みんなで製作した作品などで会話が弾んだり笑顔のきっかけになるように工夫している。	安全で快適に過ごすことができるよう環境を整備している。季節ごとの飾りつけや、みんなで製作した作品などで会話が弾んだり笑顔のきっかけになるように工夫している。	東西ユニットの共有スペースとして、食堂フロアがある。中央のキッチンからご飯の炊かれる匂いや、味噌の香りを感じることができる。対面式で職員は利用者の様子を見ながら、食事の準備が行える。フロアにはソファや簡易ベットが用意され、利用者同士の会話や疲れた時に利用が出来る。またインフルエンザ予防対策として、大型加湿器が置かれ、廊下や居室には、湿したタオルで風邪予防対策に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホーム内に何箇所かソファを置き、思い思いに自由に過ごすことができる空間がある。	ホーム内に何箇所かソファを置き、思い思いに自由に過ごすことができる空間がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人やご家族の意向に添い、使い慣れた馴染みのものや仏壇など居室におくことで安心できる場所になるよう工夫している。	ご本人やご家族の意向に添い、使い慣れた馴染みのものや仏壇など居室におくことで安心できる場所になるよう工夫している。	クローゼット、エアコン、カーテンは備え付けである。自宅で使用していたタンスや仏壇、冷蔵庫、机、椅子等、自分好みの物を配置し、今迄の馴染みの生活が出来る環境が工夫されている。また、居室入口には、この時期、青、赤のクリスマスリボンが西ユニットに、リースが東ユニットと季節感を味わう事が出来る。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	「できる事」の継続が可能な環境になるよう個々の状況に合わせて安全に過ごしていただくための工夫をしている。	「できる事」の継続が可能な環境になるよう個々の状況に合わせて安全に過ごしていただくための工夫をしている。		